第 22 回社会福祉研究交流集会 in 京都 ご案内

つくるのは私だ!-いのち・くらし・平和-

日程: 2016 年 9 月 3 日(土) 13 時 30 分~ 9 月 4 日(日) 15 時 30 分終了予定

会場: 立命館大学衣笠キャンパス(京都府京都市北区等持院北町 56-1)

<交通>JR・近鉄京都駅から 50 分~60 分(市バス、徒歩) JR 山陰本線「円町」駅から 20 分程度(市バス、徒歩)

今日の社会福祉実践には、貧困、孤立、虐待、住まい、保育、介護など様々な課題が押し寄せてきている。私たちは今日の課題を読み解く力をつけたい。そして、「今」の解決だけではなく、より良い社会・より豊かな社会福祉実践のために、未来を見つめて今日の一歩を歩みだしたい。

また今、くらしの問題だけではなく、平和を脅かす問題にも私たちは直面している。目の前の利用者のいのち・くらしを支えることと平和は、一見すると違った論点に見えるが、実は深いつながりがある。

例えば、ホロコーストが本格化する直前には障害者の虐殺が行われていた。日本でも、戦争が多くの障害者を作り出す元凶であったし、戦災孤児の問題や失業・貧困問題の深刻化をはじめ戦争体制のもとではあらゆる人権が無視され圧殺されていた。また、現在の紛争地帯では、いのちの危機に直面している子ども、女性、高齢者も少なくない。

先の大戦を振り返れば、そして現在進行中の紛争を見つめれば、一人ひとりのいのちが守られ「あたりまえのくらし」ができる社会であること。これは平和なくしては実現しないことは明らかだ。また、一人ひとりのいのちとくらしが大切にされることが、これからの平和を実現することにつながっていく。私たちは、いのちとくらしを守る仕事の担い手として、平和を守っていきたい。

私たちの社会を見渡せば「よりよい社会、よりよい未来」を考える仲間がいる。深刻な待機児童問題に 直面する親たちが繋がり、「保育園落ちたの私だ」と国会前に集まった。この親たちの集まりは「静かな 抗議行動であった」と言われている。しかし、デモに参加したことのない市民が「私の問題」を考え、動 き始めた。

私たちも、動き出そう。この思いを込めてこの研究交流集会のメインテーマを「つくるのは私だ!―いのち・くらし・平和」とし、あるべき社会を目指して、今何を考え、どんな行動を起こす必要があるのかを考えたい。そして、この研究交流集会が「10年後へのみちしるべ」となるような学びを得られるものとしていきたい。

第 22 回社会福祉研究交流集会実行委員会

※都合により分科会テーマ、終了時間などプログラムを変更する場合があります

全体会 9月3日(土)13時30分~17時終了予定

■オープニング

- *文化行事 伝統芸能 吉祥院六斎念仏
- *石倉康次実行委員長あいさつ(集会テーマ解題)

■記念講演

「平和をまもるために」(仮)

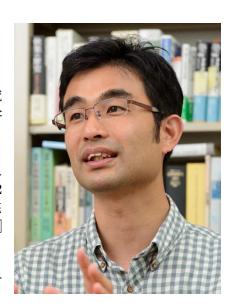
講師 藤原辰史さん(京都大学人文科学研究所准教授)

【プロフィール】

1976年 北海道に生まれ、島根県で育つ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程中途退学。博士(人間・環境学)。東京大学大学院農学生命科学研究科講師を経て、現在は京都大学人文科学研究所准教授。専攻は農業思想史、農業技術史。

主な著書に、『稲の大東亜共栄圏』(吉川弘文館 2012)、『カブラの冬』(人文書院 2011)、『ナチス・ドイツの有機農業』(柏書房 2005、新装版、2012 第一回日本ドイツ学会奨励賞)、『大東亜共栄圏の文化建設』(共著、人文書院 2007)、『食の共同体』(共著、ナカニシヤ出版 2008)、『食べること考えること』(共和国 2014) など。

この間の安倍政権による平和の破壊、学問の愚弄、憲法の蹂躙を止めさせ、 新時代の自由と平和を創造するために結成された「自由と平和のための京大有 志の会」の発起人として活躍中。



■リレートーク 「つくるのは私だ! 一いのち・くらし・平和一」

保育所保護者、高齢者関係者、保育の市場化、障害当事者の方、生存権裁判、平和・憲法など

【コーディネーター】 志藤修史さん (実行委員会事務局長・大谷大学教授)

■懇親会く全体会終了後・大学レストラン(予定)>

分科会•講座等 9月4日(日)9時30分~15時30分終了予定

※テーマは仮題です

- [1] 「虐待」事例の背景を見つめよう~重大な人権侵害が後を絶たない現実、家族だけの責任ではない~ 現場から事例を出し合い、虐待事例を発見し、虐待が起こらない社会の仕組みにしていくために専門職は何が出来るかを考えます。
- [2] 社会福祉事業の現場から「公的責任」を問う一地域/住民のニーズを出発点として一

地域・住民の必要性にこたえていく事業とはどのようなものか、現場実践から公的責任を問う筋道・方法を共有し、今後の方向性を考えます。

[3] ケアの商品化と利用者負担

ケアの商品化と利用者負担が増大する中で、現場にどのような問題が生じているのかを確認し、本来のケアの社会 化に向けての制度・政策のあり方を考える機会とします。

[4] 住まいの貧困と向き合い、克服への道すじと展望を探る

日本の住宅政策の歴史と現状と課題、生活保護基準・制度の運用と「住まい」の最低基準、ホームレス支援の現場から見た法・制度の現状などから住まいの貧困克服の道すじと展望を探ります。

[5] 学び合い育ち合える職場づくり

若手、中堅、管理者の立場からのそれぞれレポートを通して、学び合い育ちあえる職場づくりについて考えます。

[6] どうしてお金がなくて困る人が生まれるのか

学費などの経済的問題と直面する大学生や、ホームレス支援や子どもの学習支援に取り組む実践家などを交えて、「お金がなくて困っている」状況を明らかにし、そのような状況が生まれる社会的背景について、参加者の皆さんと共に考えます。

[7] 権利条約・国際比較の中から日本の現状を考える(講義形式)

イギリス、ベトナム、南米、イタリア、ポーランド、スウェーデンなどとの国際比較を通して日本の現状を考えます。

- [8] 基礎講座 全体会リレートークを読み解き、社会保障・社会福祉の基礎を学ぶ(仮)
 - 1日目の全体会リレートークの報告内容を読み解き、社会保障・社会福祉の基礎を学びます。
- [9] 福祉のひろば企画 ひろば井戸端会議(仮)
 - 一昨年の大阪集会と同様、福祉のひろば連載者などが登場する楽しい企画を考えています。
- - 【費用】参加費 一般・大学院生 5,000 円 学部生・障がい者 3,000 円 懇親会費 (9月3日夕) 3,000 円 弁当代 (9月4日昼) 1,000 円
- ※プログラムの詳細は、福祉のひろば、総合社会福祉研究所のホームページでお知らせしていきます。

主催:第22回社会福祉研究交流集会実行委員会・総合社会福祉研究所

◆申込·問合せ 総合社会福祉研究所

電話 06 - 6779 - 4894 FAX06 - 6779 - 4895 E-mail:mail@sosvaken.ip

第22回社会福祉研究交流集会 in 京都 (9/3·9/4)

参加申込書 (2016年月日)

フリガナ	歳 男・女 一般・院生・学部生・障がい者
名前	所属団体
ご連絡先(自	目宅・職場) ※お申込み確認はFAX又は E-Mail で行います。必ずご記入下さい。
	※職場の場合は職場名の記入を忘れずにお願いします。
₹	_
住所	
TEL	() FAX ()
携帯	()
E-mail	@:
◆該当箇所にチェックまたは〇印・必要事項をご記入下さい。	
参加費	口一般 5,000 円 口大学院生 5,000 円 口学部生 3,000 円 口障がい者 3,000 円
参加日程	□両日 □9/3 のみ □9/4 のみ
分科会	第1希望 1・2・3・4・5・6・7・8・9 ※必ず記入して下さい
希望	第2希望 1・2・3・4・5・6・7・8・9 ※必ず記入して下さい
懇親会	□ 参加する (9/3 夜・3,000円) □ 参加しない
お弁当	□ 申し込む (9/4 昼・1,000 円) □ 申し込みしない
車いす介度	カ □ 車いす介助
備考	

【参加申込・参加費送金方法】

- 1)上記の参加申込書にご記入のうえ、ファックス、郵便等でお送りいただくか、ホームページからお申込みください
- 2) <u>分科会・講座は、会場の都合上、必ず第2希望までご記入ください</u>。第1次締切7月31日、第2次 締切8月28日
- 3) 参加費は、郵便局にある青色の郵便振替用紙に参加費の内訳(参加費・懇親会費・弁当代)を明記して、下記の口座へお振り込みください。

【口座番号:00990-0-62868 加入者名:総合社会福祉研究所】

4) 申し込みは、ご入金を持って確定となります。お早めにご入金をお願いします。ご入金確認後、8月 15日以降、参加券·懇親会券等を郵送します。当日忘れずにご持参下さい。

【宿泊ホテルについて】

ご紹介はいたしません。各自で確保してください。

▲送信先▲ 総合社会福祉研究所(FAX 06-6779-4895)